

EMS活動: 「環境教育の推進」調査結果 -1

EMS活動: 「環境教育の推進」調査結果 -2

2014年度の実績: 全学で実施された「環境関連科目」

2015.3.25現在

2014年度の実績: 全学で実施された「環境教育研修」

2015.3.25現在

所属	学科	春学期の実績		秋学期の実績		2014年度実績	
		科目数	受講学生数	科目数	受講学生数	科目数	受講学生数
社会科学部	経営社会学科	6	96	8	125	14	221
	スポーツ社会学科	2	66	1	8	3	74
保健医療福祉学部	看護学科	2	81	1	63	3	144
	理学学科	6	596	4	223	10	819
	作業学科	3	120	2	63	5	183
	社会福祉学科	6	77	3	81	9	158
心理学部	心理学科	3	71	1	3	4	74
	子ども発達学科	2	77	2	112	4	189
文化財学部	文化修復国際協力学科	2	6	2	4	4	10
アニメーション文化学部	アニメーション文化学科	2	39	2	62	4	101
地域創成農学部	地域創成農学科	5	143	5	40	10	183
外国語学部	外国学科	0	0	1	10	1	10
事務局	庶務部, スチューデントサポートセンター	—	—	1	19	—	—
合計		39	1,372	33	813	72	2,185
1人当たりの教育回数(学生1900人, 教職員200人)		0.72	—	0.43	—	—	1.15

所属	学科	春学期の実績		秋学期の実績		2014年度実績	
		議・オリエンテーション 受講の学生と 教職員数	議・オリエンテーション 受講の学生と 教職員数	議・オリエンテーション 受講の学生と 教職員数	議・オリエンテーション 受講の学生と 教職員数	科目数	受講の学生と 教職員数
社会科学部	経営社会学科	9	32	7	59	16	91
	スポーツ社会学科	1	20	2	46	3	66
保健医療福祉学部	看護学科	4	254	1	76	5	330
	理学学科	4	225	2	110	6	335
	作業学科	1	11	1	10	2	21
	社会福祉学科	4	84	1	8	5	92
心理学部	心理学科	0	0	1	10	1	10
	子ども発達学科	3	145	2	37	5	182
文化財学部	文化修復国際協力学科	1	50	1	9	2	59
アニメーション文化学部	アニメーション文化学科	4	136	5	145	9	281
地域創成農学部	地域創成農学科	6	138	3	15	9	153
外国語学部	外国学科	2	30	5	52	7	82
事務局	庶務部, スチューデントサポートセンター	9	106	9	42	18	148
合計		48	1,231	40	619	88	1,850
1人当たりの教育回数(学生1900人, 教職員200人)		0.59	—	0.29	—	—	0.88

2014年度(春学期): 環境教育の推進 「①環境授業の開講」に関する実施記録

※ 授業、ゼミなどで、環境関連の教育を行ったものを対象とする。

【活動番号】 ①電力消費の削減 ②化石燃料消費の削減 ③二酸化炭素排出量の削減 ④廃棄物管理およびごみの減量 ⑤水使用量の削減
⑥印刷用紙使用量の削減 ⑦化学物質の適正管理 ⑧環境教育の推進 ⑨グリーン購入の推進 ⑩大学周辺の環境美化

学科	No.	科目名等	学期(春, 秋)	対象学年	受講者数	実施時期など	環境活動の内容	活動の分類 (活動番号を入力)
経営社会	1	環境マネジメントシステム論	春	環境経営学科3年生	22	4月8日から7月22日(1回/週)	授業において環境マネジメントシステムについて教育を行った	⑧
	2	基礎演習1	春	1	5	6/24、5限	大学のEMS活動資料を配布して説明	⑧
	3	消費・環境論	春	1	15	7/1、1限	プリントで大学のEMS活動を紹介し、省エネ、適正なごみ分別、階段利用などの取り組みを促す。大学・事業所の環境経営を含めて講義した。	⑧
	4	エネルギー・環境論	春	2	14	4-7月講義期間	エネルギー事情と環境問題の関連性をデータや新聞記事、行政の公表資料を活用して教育した。	⑧
	5	ライフサイクルアセスメント	春	3	20	4-7月講義期間	製品やサービスのライフサイクル全体における環境負荷の定量手法と実際を説明した。	⑧
	6	国際関係論	春	受講者	20	7月15日	越境する環境問題と対策、そして現状と今後の事について説明した。	⑧
スポーツ社会	7	スポーツボランティア実習	通年	2	65	5月～11月	フジアーノ岡山、FC吉備国際大学Charmeのホームゲーム運営の実習において、スタジアムの環境美化並びにeco活動の一環で、ごみの分別及びペットボトルもキャップを回収した。	④⑧
	8	生涯学習概論	春	受講者	1	6月25日	博物館活動について触れる中で、ESD・水俣地域学などの事例を紹介した	⑧
看護	9	産業衛生管理論 (工場見学実習含む)	春	4	3	春学期 水1限	作業環境管理との関連で、有害物質の管理(処分を含む)について概説工場見学(秋期)時にも事業所(ISO14001認証済)の担当者から環境管理について説明	⑧
	10	生活援助論Ⅱ	春	2	78	4月14・21日 3・4限	医療系廃棄物(特別管理廃棄物)の適正な取扱と処分方法について説明	⑧

学科	No.	科目名等	学期(春, 秋)	対象学年	受講者数	実施時期など	環境活動の内容	活動の分類 (活動番号を入力)
理学療法	11	環境科学	春	1	66	系統講義、月曜日1限前半	生態系、物質循環、食物連鎖、の環境保護に関する重要な基本的考え方について講義。	⑧
	12	環境科学	春	1	66	系統講義、月曜日1限中半	環境汚染、地球温暖化の現状と対策、オゾン層の破壊の現状と対策、紫外線の影響と対策、環境ホルモンの項目について講義	⑧
	13	環境科学	春	1	66	系統講義、月曜日1限後半	基本的な低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の3つを統合した持続可能な社会の構築について自ら考え、環境に配慮した行動が能動的にできる心構えについての講義	⑧
	14	内科学	春	理学・作業2年	112	5月14日	胃癌の原因であるピロリ菌と飲み水との関係を講義した。	⑧
	15	病態生理学 I	春	看護2年	86	5月28日	胃癌の原因であるピロリ菌と飲み水との関係を講義した。	⑧
	16	病理学/病理学概論	春	理学・作業・看護	200	7月3日	腫瘍の原因と発生のメカニズムの項目で環境因子の重要性を講義した。	⑦⑧
作業療法	17	環境科学	春	1	40	系統講義、月曜日1限前半	生態系、物質循環、食物連鎖、の環境保護に関する重要な基本的考え方について講義。	⑧
	18	環境科学	春	1	40	系統講義、月曜日1限中半	環境汚染、地球温暖化の現状と対策、オゾン層の破壊の現状と対策、紫外線の影響と対策、環境ホルモンの項目について講義	⑧
	19	環境科学	春	1	40	系統講義、月曜日1限後半	基本的な低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の3つを統合した持続可能な社会の構築について自ら考え、環境に配慮した行動が能動的にできる心構えについての講義	⑧
社会福祉	20	ボランティア論 I	春	履修登録者	28	6月24日	授業の一環で「環境保護ボランティア活動」というテーマで環境問題を語った。	⑧
	21	権利擁護と成年後見制度	春	3, 4	21	7月14日	授業の中で複数の人間間の権利擁護の課題について講義した中で、「環境問題」についても触れ、ごみの廃棄などの身近な話題について説明した。	⑧
	22	社会開発論	春	3, 4	13	7月1, 8日(水)5限、	途上国の環境問題について、ごみ問題、空気汚染、GOP会議、グリーン化とエンド・オブ・ザ・パイプ、マングローブ林破壊と植林、について現状の深刻さを文献を基に説明した。	⑧
	23	環境科学	春	2	5	系統講義、月曜日1限前半	生態系、物質循環、食物連鎖、の環境保護に関する重要な基本的考え方について講義。	⑧
	24	環境科学	春	2	5	系統講義、月曜日1限中半	環境汚染、地球温暖化の現状と対策、オゾン層の破壊の現状と対策、紫外線の影響と対策、環境ホルモンの項目について講義	⑧
	25	環境科学	春	2	5	系統講義、月曜日1限後半	基本的な低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の3つを統合した持続可能な社会の構築について自ら考え、環境に配慮した行動が能動的にできる心構えについての講義	⑧

学科	No.	科目名等	学期(春, 秋)	対象学年	受講者数	実施時期など	環境活動の内容	活動の分類 (活動番号を入力)
心理	26	教職総合演習	春	3	16	月曜5限	学生自ら環境問題について考え、調べ、発表するように情報提供・指導した。	⑧
	27	教職総合演習(子ども)	春	3	26	月曜3限	学生自ら環境問題について考え、調べ、発表するように情報提供・指導した。	⑧
	28	講義:医学概論 I	春	2	29	7月3日、7月10日	環境保健に関わる内容を約2コマにわたって講義。	⑧
こども発達	29	里山総合演習 I	春	1	34	4/15、4/22、 5/6、5/20、 5/27、6/10、	野外活動体験および野外活動についての指導の中で、環境保全および環境づくりについての教育をおこなった。	⑧
	30	里山総合演習Ⅲ	春	2	43	4/15、4/22、 5/6、5/20、 5/27、6/3、	野外活動体験および野外活動についての指導の中で、環境保全および環境づくりについての教育をおこなった。	⑧
文化財修復	31	文化財保存環境科学1	春	3	4	4/9、5限	持続可能な文化財保存活動に必要な環境知識習得の必要性を講義した。	⑧
	32	文化財学演習 I (ゼミ)	春	3	2	4/16、3限	高温多湿の日本の環境における文化財の保存管理について講義をした。 (温湿度管理への意識付け)	⑧
アニメーション 文化	33	2DCGアニメーション演習	春	2	16	4/10、1限	専用PC教室の利用説明に際して必要な環境知識の必要性を強調し、実践を促した。	⑧
	34	コンピュータグラフィックス基礎 I	春	2	23	4/11、1限	専用PC教室の利用説明に際して必要な環境知識の必要性を強調し、実践を促した。	⑧
地域創成	35	基礎演習 II および IV	秋	学生	8	10月8日	キャンパス内でのゴミ分別ルールの説明。ゴミ分別が本当に「エコ」であるかの議論をおこなった。	④
	36	基礎演習	春	学生約100名	100	春学期	中庭の花壇にペチュニアなど花を植え、また菜園に夏野菜を植えて環境整備を行った	⑩
	37	基礎演習 I	春	1	4	5/21、4限	授業後教室の消灯の徹底を呼びかけ通達した。	①
	38	基礎演習Ⅲ	春	2	12	5/21 5限	授業後教室の消灯の徹底を呼びかけ通達した。	①
	39	環境科学	春	学科1年生	19	春学期	講義「環境科学」を通して、環境問題の歴史を概説し、現在の環境問題について討論を行った。(シラバス:添付資料参照)	⑧
11学科	39科目				1,372			

2014年度(秋学期): 環境教育の推進「①環境授業の開講」に関する実施記録

※ 授業、ゼミなどで、環境関連の教育を行ったものを対象とする。

【活動番号】 ①電力消費の削減 ②化石燃料消費の削減 ③二酸化炭素排出量の削減 ④廃棄物管理およびごみの減量 ⑤水使用量の削減
⑥印刷用紙使用量の削減 ⑦化学物質の適正管理 ⑧環境教育の推進 ⑨グリーン購入の推進 ⑩大学周辺の環境美化

学科	No.	科目名等	学期(春, 秋)	対象学年	受講者数	実施時期など	環境活動の内容	活動の分類 (活動番号を入力)
経営社会	1	地球環境科学	秋	1	30	秋学期の期間	地球の物理的・化学的・生物的環境及び社会的環境について講義を行い、環境問題についての理解を深めた。	⑧
	2	環境経営概論	秋	1	18	秋学期の期間	起業の環境配慮経営について講義を行った。また、環境マネジメントシステムの概要を説明した。	⑧
	3	循環型社会論	秋	2	14	秋学期の期間	持続可能な社会について講義をした。	⑧
	4	環境法	秋	2	23	秋学期の期間	環境関連の法規の概要と制定の背景等について、かく主体の役割もまじえながら講義した。	⑧
	5	環境教育論	秋	3	18	秋学期の期間	環境教育を実施する分野(学校, 社会施設, 企業)について目的や実施内容を調べたり、環境問題の捉え方に関するテーマについて討論を行った。	⑧
	6	環境モニタリング論	秋	3	12	秋学期の期間	地球及び地域環境の監視測定の現況に理解を深めるとともに、環境計測の実習や環境計測の基本事項を学んだ。	⑧
	7	演習Ⅱ	秋	2, 3年	6	秋学期の期間	環境社会検定のテキストを輪読しながら、環境問題への理解と施策, 社会対応への理解を深めた。	⑧
	8	国際経済論	秋	受講生	4	11月19日	親環境型の経済学とも言える「環境経済学」の視点と枠組みを紹介した	⑧
スポーツ社会	9	基礎演習Ⅱ	秋	1	8	10月15日	文献購読の一環として、オリンピックと環境についての文章を読み、話し合いを行った	⑧
看護	10	生活援助論	秋	1	63	10月6日	患者の安全とは、感染対策とはの2点と関連付けて、適切な医療廃棄物の廃棄方法について講義した。	⑧
理学療法	11	管理運営学	秋	3	38	秋学期の期間	グループワーク学習と発表媒体を作成する過程で、資料作成に関するコピー用紙の使用量と印刷機のコストを説明し、コスト意識を涵養しながら講義した。	①, ⑥
	12	一般臨床医学	秋	3	96	秋学期の期間	膀胱腫瘍の発症の要因として発癌物質の関与、特に芳香族アミンの化学物質が重要であることを講義した。	⑦
	13	化学	秋	1	24	系統講義、 月曜日1限	化学薬品の注意点、有機溶剤中毒、生分解性について各項目の取り組みについて指導	⑦
	14	生理学実習	秋	1	65	講義前半、 火曜日3~5限	医療系廃棄物(特別管理廃棄物)の適正な取扱と処分方法について指導	④
作業療法	15	化学	秋	1	23	系統講義、 月曜日1限	化学薬品の注意点、有機溶剤中毒、生分解性について各項目の取り組みについて指導	⑦
	16	生理学実習	秋	1	40	講義前半、 火曜日3~5限	医療系廃棄物(特別管理廃棄物)の適正な取扱と処分方法について指導	④

学科	No.	科目名等	学期(春, 秋)	対象学年	受講者数	実施時期など	環境活動の内容	活動の分類 (活動番号を入力)
社会福祉	17	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	秋	2	32	10/7、5限	大学のEMS活動の資料を配布し、電力消費等について詳細を説明。	⑧
	18	キャリア開発Ⅱ	秋	2	16	10/6、5限	本学でのEMS活動を紹介し、本学の省エネに向けた課題をグループ討議(結果→自動販売機が多すぎとの意見多数)。	②
	19	現代社会と福祉Ⅱ	秋	1,2,3,4 再履修、編入 含	33	10/8、1限	本学でのEMS活動の取り組みを紹介し、省エネの効果について説明した。また、化石燃料のこれからと代替エネルギーについて紹介した。	②
心理	20	心理学演習Ⅱ	秋	3	3	12月11日	ゼミの中で、室温を必要以上に高くしないよう伝えた。	①
こども発達	21	保育内容(表現)	秋	2	34	10月20日	今年度のEMS活動について説明し、みんなで取り組むよう促した。板書。	⑧
	22	里山総合演習Ⅱ・Ⅳ	秋	1・2	78	10月～12月	外での活動の中で、環境保全についての話をした。	⑧
文化財修復	23	文化財保存環境科学2	秋	3	2	10/8、5限	持続可能な文化財保存活動に対する具体的な項目を紹介するオリエンテーション的な講義をした。	⑧
	24	文化財学演習Ⅱ(ゼミ)	秋	3	2	10/8、3限	高温多湿の日本の環境における文化財の保存管理について講義をした。(温湿度管理への意識付け)	⑧
アニメーション文化	25	3DCGアニメーション演習	秋	2	31	10/2、1限・2限	春期の使用状況を説明し、専用PC教室の利用に際して必要な環境知識の必要性を再度強調し、実践を促した。	⑧
	26	コンピュータグラフィックス基礎Ⅱ	秋	2	31	10/3、1限・2限	春期の使用状況を説明し、専用PC教室の利用に際して必要な環境知識の必要性を再度強調し、実践を促した。	⑧
地域創成	27	基礎演習ⅡおよびⅣ	秋	学生	8	10月8日	キャンパス内でのゴミ分別ルールの説明。ゴミ分別が本当に「エコ」であるかの議論をおこなった。	④
	28	基礎ゼミⅡとⅣ	秋	基礎ゼミの学生	8	10月8日	基礎演習で、紙、ペットボトル、空き缶などの分別を心得るようお願いした。	⑧
	29	基礎演習Ⅱ及びⅣ	秋	学生	8	10月22日	教室等部屋を最後に退出する際は、電気やエアコンなどを日頃から消すことが、持続的な社会をつくりあげていくうえで重要である事を授業の時間を使用し、口頭で学生に周知しました。	①
	30	基礎演習Ⅱ、Ⅳ	秋	1年、2年	8	秋学期の期間	講義が終了して教室から最後に退出する学生は電気を必ず消すように指導した。	①
	31	基礎演習Ⅱ、Ⅳ	秋	1年、2年	8	12月24日	エネルギーを多量に消費する現代社会について学生と議論した。	①～③
外国	32	教養講座 (カリキュラム外科目)	秋	1	10	12月	EMSの取組み内容(証拠資料なし、学内掲示内容をもとに説明)	①～⑩
留学生課	33	キャリア開発	秋	1	19	11月3日	ゴミ分別の理由と、高梁市で行われているゴミ分別方法について高梁市が発行している資料を基に学んだ。	⑧
12学科1課	33科目				813			

2014年度里山・(子ども)総合演習授業計画春学期記録

春学期			
回	月/日	火曜日・1限	
		里山総合演習Ⅰ[1年]	里山総合演習Ⅲ[2年]
		内容	内容
1	4/8	オリエンテーション	オリエンテーション 交流①事前指導
2	4/15	[山作業1・第1子ども広場] 椎茸種駒打ち、薪づくり	[幼稚園・保育園との交流1・子どもの森] 山歩き
3	4/22	[畑作業1・学科畑] 防鳥ネット張り、いちご草取り	交流①事後指導
4	5/6	[畑作業1・学科畑] トマト・キュウリ定植	交流②事前指導
5	5/13	[野外あそび1・第2子ども広場] ロープワーク(タープ張り)	
6	5/20	[畑作業2・学科畑] トマト・キュウリの支柱立て	[幼稚園・保育園との交流2・学科畑] いちご狩り
7	5/27	[畑作業3・学科畑] さつまいも畑畝立て	交流②事後指導
8	6/3	前半のふりかえり ポートフォリオ中間発表	交流③事前指導
9	6/10	[畑作業4・学科畑] さつまいも苗植え	[幼稚園・保育園との交流3] 1・2限 さつま芋苗植え
10	6/17	プレーパークについて知ろう 岡山プレーパークプレーリーダー 松田秀太郎氏	交流③事後指導
11	6/24	[自然観察2・伊賀谷川] 水辺の自然観察	交流④事前指導
12	7/1	[自然観察3・伊賀谷川] リスニングウォーク 水辺の音を聞く	
13	7/8	[畑作業5・学科畑] さつまいも畑草取り	[幼稚園・保育園との交流4] 1・2限 さつま芋畑草取り
14	7/15	「森の幼稚園について知ろう」 広島かえで幼稚園 中丸元良園長	
15	7/22	まとめ、合同ポートフォリオ発表会	

平成26年度 環境科学

授業科目名	環境科学		担当者	内藤正明・森野真理・内藤智明	
年次	1	履修期	2014年 春学期	単位数	2.0
テーマと到達目標	「環境問題の構造と変容について理解する」ことをテーマとし、人間活動と自然環境の相互関係について基礎的な知識を学ぶとともに、戦前から現在までの環境問題の事例を示しながら、環境問題の構造やスケールが変容してきたことを理解する。課題解決のための企画力、自ら思考する力をつけるために、討論・発表など参加型学修を取り入れる。到達目標は、①人間活動と自然環境の相互関係に関する基礎的な知識を学ぶ、②環境問題の複雑さやスケールが変容してきた時代背景と問題の概略を説明することができる、③環境問題と農業との相互作用について説明し、その対策について、自分の見解を述べていくことができる。				
概要	本講義は、環境問題に関する歴史や事例、法律や行政の対応、地球規模の環境問題等についてオムニバス方式で講義を行う。				
評価方法	到達目標は、①～③の3種類があり、全ての項目で一定の成果を求める。中間試験および単位認定試験では、到達目標①及び②の理解度を見る。③については、参加型学習形態の授業の中での発言頻度や発言内容等、授業への参加態度により達成度を評価する。したがって、成績評価は、中間・単位認定試験(50%)、授業参加態度(30%)、課題レポート(20%)のウエイトにより評価する。				
履修条件・注意事項	事前発表については、課題作成の予習が必要である。さらに、授業内容によって討論をおこなうため、ノート作成と復習も必要である。中間試験および単位認定試験では、環境問題の到達目標①、②の理解度を見るため、特に復習が必要である。到達目標、授業内容、評価方法を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。				
春学期授業計画			秋学期授業計画		
1. 環境問題とは何か 2. 戦前・戦中の公害 3. 高度経済成長期の公害 4. 公害行政の強化と公害輸出 5. 都市生活型公害と都市アメニティ 6. 自然保護から生物多様性の保全へ 7. 生物多様性問題の今後の展開:討論 8. 物質循環と農業 9. 中間テスト 10. 農業と環境との相互関係 11. 環境問題が農業に与える影響 12. 農業と環境の相互関係に関する討論:事前調査と発表 13. 原発事故と環境問題 14. 地球環境問題が求める社会変革 15. 環境倫理/生命系の経済学 16. 単位認定テスト			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16.		
教科書(書籍名)	使用しない(必要に応じプリントを配布する)	出版社名			
教科書(著者名)		ISBN			
教科書(書籍名)		出版社名			
教科書(著者名)		ISBN			
参考書(書籍名)	環境問題の社会史	出版社名	有斐閣		
参考書(著者名)	飯島伸子	ISBN	4-641-12097-8		
参考書(書籍名)		出版社名			
参考書(著者名)		ISBN			

★環境教育科目：『里山総合演習』のプログラム

－心理学部 子ども発達教育学科－

1・2年次（必修）3・4年次（選択）の通年科目「里山総合演習」をカリキュラムに取り入れて、里山というフィールドでの様々な体験学習を行っています。

自然観察，里山整備，野菜およびきのこの栽培，炭焼き，薪作りなど，活動から環境を通した地域の暮らしを知り，未来社会のあり方を考えるプログラムです。



★ 大学の常駐業者従業員への環境教育研修

- ・ 警備会社職員に教育資料を渡してEMS活動の取り組みを説明
- ・ 環境コミュニケーションへの協力を依頼



- ・ コンビニ職員に、EMS活動の取り組み説明
- ・ レジ袋削減への協力を要請



6号館のセブンイレブン店



10号館のJEIコンビニ店



- ・ 清掃担当の職員に環境教育研修の実施
- ・ ゴミ分別の変更状況等を説明

